

<全体分析>

試験時間 90分

<p>解答形式 論述式、選択式、記述式。</p> <p>分量・難易(前年比較) 分量(減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加) 難易(易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)</p> <p>出題の特徴や昨年との変更点 大問2題、小問は計7問で、論述字数は1問当たり50~200字。論述問題が昨年より1問増加して7問となり、統計判定問題や語句記述問題、および昨年はなかった語句指定の論述問題が出題された。ただし、総字数は900字程度で、昨年と同じである。グラフ・地図などの資料を用いた問題は定着している。</p> <p>その他トピックス 特になし。</p>
--

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
(I)	選択式 論述式	西アジア	問1 イラク、イラン、サウジアラビアの農業用水確保の取り組み(150字程度) 外来河川が流れるイラクは河川水、高原のイランはカナートによる地下水、砂漠のサウジアラビアはセンターピボット方式による地下水を利用することを述べる。	標準
			問2 イエメンとカタールの人口増加の要因(100字程度) 資源に恵まれないイエメンは出生率が高く自然増、資源に恵まれるカタールは移民が多く社会増という対比で説明する。	標準
			問3 ホルムズ海峡とマンダブ海峡の比較、石油輸出における西アジアの割合が低下している理由(150字、50字程度) 表2でYがマンダブ海峡と判断できるので、その理由を述べ、表3でXの割合が高いAをタンカーと判断する。	難
(II)	論述式 記述式	ライン川とその流域	問1 ライン川の流路の方向変化の原因(100字程度) 上流部で3か所変化しているところを地形と関連づけて述べる。	難
			問2・3 国際河川とその流域における社会経済への影響(150字程度) どの国の船舶も自由航行ができること、複数の国を流れることからその影響について述べる。	標準
			問4 ブルーバナナの範囲と産業の特徴(200字程度) 範囲は具体的な地域名をあげ、EUの中核地帯で各種の産業が発達していること、ルール工業地帯の発達の背景と変化の理由、現状などを述べる。	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

教科書の内容を十分に把握して地理に関する知識を深めるとともに、論理的で簡潔な文章を書く訓練をしておこう。基本的な論述練習としては、地理用語や教科書の小項目を100～200字程度で説明したり、要約したりすることから始めるとよい。論述問題では出題の意図を把握することが重要になるが、そのためには、阪大の過去問だけでなく、他大学も含めて数多くの論述問題に触れ、さまざまなタイプの問題に取り組んでおく必要がある。書く内容についての知識とともに、文章を組み立てて答案に仕上げる練習も必要である。事実関係を説明させる問題だけでなく、統計・地図の読み取りから理由や背景を論述させる問題も出題されているので、統計やグラフの読み取りを含む論述問題は重点的にやっておこう。また、時には（I）の問3のように、教科書に記載の少ない事項や教科書からやや離れた時事問題も出題されているので、新聞などを読んで、世界各国についての時事問題や現代日本の地域問題・社会問題などにも関心を持っておこう。